

秋風とともに『人・歌・心』！

＜令和6年度合唱祭を終えて＞

音楽は、万人の共通言語であり人の心を強く揺り動かすことができる最大級の感情表現です。

そして、音楽は自分一人で楽しむもこともできますが、今回の合唱祭及び合唱祭に向けた一連の取組は、言うまでもなく、個人種目ではなく団体種目でした。ですから、新風祭同様、いや個人的には体育祭よりも合唱祭の方が、皆さんの集団の成長に大きく寄与する重要な意義をもつものだと捉えていました。

以前にも話をしましたが、新風祭の「全員リレー」、あれは『心をつないだ』ものです。これをあえて『縦の団結』としましょう。それに対して今回は『心をひとつに』することが要求されました。いわば『横の団結』なのです。体育祭の種目で例えれば、バトンをつなぐリレーではなく、横一列に全員で歩を進めるN人N+1脚でしょうか。一人がこけたら皆こける。心がばらばらだと前進できない。クラスがまとまらなければ感動を生み出せないのです。

そして、素晴らしい合唱を創り上げることが最終目的ではなく、今回の合唱の取組を通して、クラスや学年、学校が心一つになり、さらなる成長を遂げるからこそが大切だったはずです。みなさん一人一人のその手応えはいかがだったでしょうか。

本当に素晴らしい音楽とは、時間と空間を超越するものです。昔の曲であれ今の曲であれ、日本の曲であれ外国の曲であれ、たとえ歌詞なんてわからなくてもだれもが感動できる曲はたくさんあります。

そして、歌は世につれ、世は歌につれともよく言います。あの曲を聴くと、あの時代を思い出す。あの歌が流れると、あの出来事が蘇る。そんなことを経験したことはだれにでもあるでしょう。まだ十数年しか生きていないみんなにも、きっとあるのではないのでしょうか。

私にもあります。特に、この合唱曲を聴くと、あの合唱曲が流れると、あの時あの学校であのクラスで歌った曲だ。みんなで頑張って作り上げた歌だと。時には、再び熱いものが込み上がります。

中学時代にクラス一丸になって作り上げた合唱曲が、そんな皆さんの将来の応援歌になることを祈って、今回の合唱祭のみなさんの頑張りを大いに讃えたいと思います。感動の歌声をありがとう！